

陳 情	受 理 番 号	47	受 理 年 月 日	令和8年1月26日	付 託 委員会	厚生経済
件 名	NAHAマラソンを公認マラソンから市民マラソンに戻すことについて					

みだしの件について、別紙のとおり陳情いたしますので、よろしくお願
いいたします。

NAHA マラソンを公認マラソンから市民マラソンに戻すことについて

陳情の主旨

NAHA マラソンは1985（昭和60）年にホノルル市と那覇市の姉妹都市提携
25周年を記念し、健康増進と観光立県のビッグイベントにするために第27回
大会まで市民マラソンとして開催されたものです。第28回大会より日本陸上競
技連盟の公認マラソンになったことにより、不具合が発生しており、市民マラ
ソンとして初心に帰り、さらに発展させるために今回の陳情をおこないます。

1. 沖縄陸上競技協会(以下、沖縄陸協)の公認マラソンとしたのはステータスア
ップを目的とするものでしたが、27回大会までの運営内容と変わることなく、
公認マラソンの規約に則ったものではないのが実態です。本来、ランナーの給
水地点は5km毎のエイドステーション以外では飲料水の供給は制限されます

が、市民マラソンとしての土壌が根強く残るため、沿道で応援する県民の人々
が善意の証として飲食物などの提供がそこかしこで見られる風物詩とも言える
光景になっています。

2. 公認マラソンの主旨とは世界記録や日本記録により近い記録が望めるようなコース設定やランナーに寄り添った気温や湿度が保てる環境を整備する必要がありますが、NAHA マラソンは「高低差」103～110mの苛酷なコースに加え、12月とはいえ「平均気温 23℃」「湿度 75%」の環境下で走行するため、優勝ランナーの記録も平均 2 時間 23 分となり、日本記録 2 時間 4 分台には遠く及ばない記録に終始しているのが実状です。一方、東京マラソンの高低差は 39m とほぼフラットなコース設定と平均気温も 12℃前後、湿度も 50%前後の中で開催されていますので、上位のランナーの記録は 2 時間 6 分台です。

3. 多くのランナーは NAHA マラソンが公認マラソンだという認知度が乏しいため、走行コース上に立つ沖縄陸協の関係者から「公認マラソンだから正しい姿で走行するように!」と叱咤され、ランナーと押し問答になるケースが随所に見られます。2025 年 12 月 7 日におこなわれた第 39 回大会では 26,378 名のエントリー数の中で日本陸連の登録者はわずか 700 名に過ぎないにも関わらず、5km 毎に設置する「計測機材」の経費 2,200,000 円その他 2,000,000 円の計、4,000,000 円が費やされているのが実態です。

なお、先の計測機材の経費を今後の発展のために用途をより望ましい「広報活動」の一例として、内外の観光客が利用する航空便の機内誌に「NAHA マラソン」の存在を明らかにすることで、より一層の認知度を上げ、多くのエントリー数を伸ばせる効果が望まれると考えるので、NAHA マラソンを市民マラソンに戻して、恒久的に発展させ、より進化させることができると考えます。